

ご指定の県産材・地域材で純木造武道場を建築します！

100% 地域材利用 木造の武道場

建築のご案内



一般社団法人
日本フローリング工業会

地域材をふんだんに盛り込んだ木構造

■基本設計概要

県産材を利用する、木造の武道場（柔剣道場）である。

公共建物としての活用を基本とし、災害時地域活用施設としての利用も考慮する。また、日本古来の伝統建築のディテールを後世に残し、木のぬくもりを感じてもらう事とした。

但し、今回設計において基本とする、建築地の建築基準規制は考慮しない。



建物構造概要

基礎は、べた基礎とし基礎高さGL+600とした。
但し、建築地地盤地耐力測定により基礎の構造は要設計とする。

木構造とし、土台・柱 150角
構造材(梁・桁)150幅
小屋組はトラス工法
接合部は、
日田市木構造システム(株)
拡張樹脂アンカー工法とする。





◎建物概要

木造平屋建て 和型瓦（ルーガ、ケイミュー株）葺き・外壁杉板貼り

外観は、武道場のイメージを優先し、地域木材を使用する旨、外壁材を板張りとし、屋根材は、和型瓦（建物が14mスパンの為に軽い屋根を採用した。一般的に板金による屋根葺きが通常であるが、和風建築のディテールを重視したい為、今回採用する屋根葺き材は、ケイミュー株のルーガ軽量和型瓦材）を採用した。

内部計画として柔道場、剣道場の2面コートを重点に

- ・柔道場：国際柔道連盟規定のサイズを採用
- ・剣道場：9mから11mの公式サイズを採用

但し、柔道場の畳を外せば、剣道2面、又、剣道場コートに畳を敷けば柔道2面コートとなる。

柔剣道として倉庫をもうけ、柔道の畳（軽量畳）を収納するため倉庫のスペースを広めに確保。

更衣室は2室に分離した。柔剣道別々ではなく、男女別々の更衣室とし、ホールには、給水場を設けた。災害時地域利用施設を考慮すれば給湯室等もほしいところだが、公共建物（学校施設）と考え基本設計から外した。

室内の仕様としては、

・柔剣道場

- 床：鋼製床下地（スリーベース）
 - ・構造用合板 t15mm
 - ・桧床板（無節） t18mm
- 壁：杉板 t12mm 貼り
- 天井：構造材あらわし 杉板 t30mm

・ホール・更衣室・倉庫

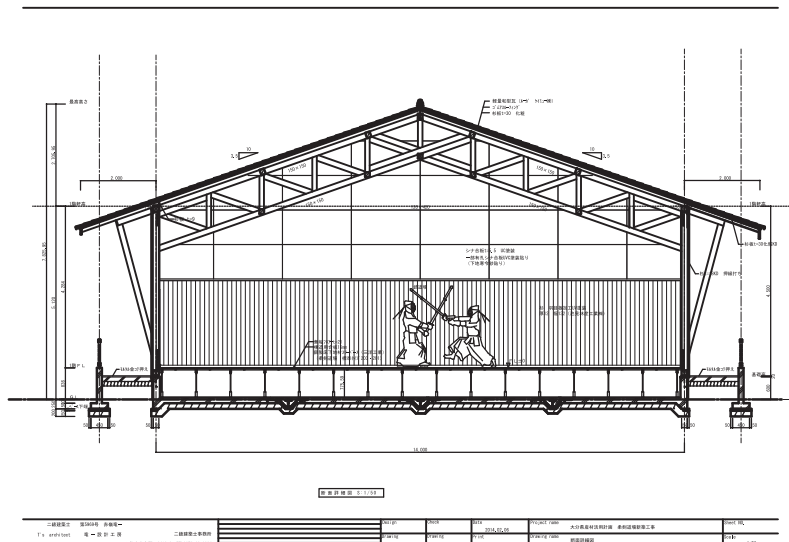
- 床：桧床板 t18mm
- 壁：杉板 t12mm
- 天井：化粧石膏ボード貼り

中学校学習指導要綱＝武道の必修化

+

公共建築物 木材利用促進法

- 「足」や「かかと」に負担をかけない弾力性のある「床づくり」
※体育館での剣道修練ではかかとを痛める
- 「気」の充実、「集中力の修練」のための「木作りの道場」
- 気持ちよく修練できる場づくり
- 長持ちのする道場づくり
- 地元の「木」を使った建築物
- 合板や、集成材ではない「ムクの板」による道場
- 無塗装、もしくは植物性自然塗料による床づくり





からだにやさしい木造武道場(1棟当たり)

建物: 木造平屋建て 和型瓦葺き・外壁スギ板貼り

木材使用量: 原木換算128m³

構造材: ヒノキ上小節土台38本、大引55本、スギ特1等柱144本
トラス120本、水平ブレス210本、棟木3本、母屋36本
スギ間柱229本、筋かい47本など

造作材: ヒノキフローリング(オスモ塗装仕上げ)470m²
スギ腰板(羽目板UV塗装)346m²
スギ天井板719m²
など



健康的な天然木材の床
一般社団法人 日本フローリング工業会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F

TEL 03-3868-0971 FAX 03-3868-0972 <http://www.j-flooring.jp/>